

あなたと議会をむすぶ

議会広報

平成29年11月22日発行
第 152 号

あじがさわ

発行…青森県鱒ヶ沢町議会 〒038-2792 青森県鱒ヶ沢町本町209-2 編集…議会広報編集委員会 ☎0173②2111(代)

この広報紙は再生紙を使い、議員の自主編集で発行しています。



舞戸小学校5学年39人が稲刈りを体験

秋空の下、舞戸小学校5学年が5月に田植えをしたつがるロマンの稲を鎌で刈り、束ねる作業を体験しました。

田んぼを提供してくれた建石地区の木村農也さんから、鎌の使い方、束ね方の指導を受け、汗をかき慣れないながらもみんなで一生懸命取り組んでいました。(9月27日)

平成28年度決算

2～3

第3回定例会のあらまし 常任委員会審議・監査審査意見

4～5

4人の議員が一般質問 (町民・町職員24人が傍聴)

6～9

議会活動 地婦連との意見交換会

10～11

議員視察レポート

東京鱒ヶ沢会総会・地域間交流 東京光が丘地区

12～14

9月
定例会号

住民の安心・安全なくらしへ
一般会計 72億9584万円
昨年度比 3億6207万円増

認定

新消防庁舎建設事業
平成29年6月供用開始



6億4449万円

プレミアム付商品券発行事業への補助 (プレミアム率10%)



1229万円

舞戸公民館トイレ改修事業
洋式化へ



540万円

放課後ルーム事業
春・夏・冬休み期間も実施



983万円

◎28年度一般会計決算の主な事業◎

平成28年度の決算は、第3回定例会において審議されました。一般会計は、議員全員による決算特別委員会(東條一彦委員長)を設置して審査。その他特別会計、企業会計決算は総務文教・産業建設の各常任委員会に付託し、審査した結果、全ての決算を原案どおり認定しました。

平成28年度 各会計決算状況

会計別	歳入	歳出	差し引き	地方債(借金)残高	
一般会計	73億7737万円	72億9584万円	8153万円	101億9205万円	
特別会計	国民健康保険事業	18億8338万円	18億6287万円	2051万円	-
	簡易水道事業	3億8399万円	2億8706万円	9693万円	9億5979万円
	農業集落排水事業	1億3232万円	1億3140万円	92万円	12億5587万円
	小規模水道事業	781万円	598万円	183万円	3394万円
	公共下水道事業	3億2439万円	3億2331万円	108万円	25億8768万円
	墓地公園事業	130万円	130万円	0万円	-
	介護保険事業	15億4755万円	14億9475万円	5280万円	-
	後期高齢者医療	1億1893万円	1億1671万円	222万円	-
水産業振興事業	2790万円	2357万円	433万円	-	

平成28年度 企業会計決算状況

水道事業	収益的収支			資本的収支		
	事業収益	事業費用	差し引き	資本的収入	資本的支出	差し引き
	1億9418万円	1億7597万円	1821万円	4819万円	1億1135万円	△6316万円
地方債残高		9億9878万円				

※資本的収支不足分6316万円は、当年度分損益勘定留保資金5747万円・繰越利益剰余金処分額569万円等で補てん
 (決算額は万円単位(四捨五入)で表示しています)

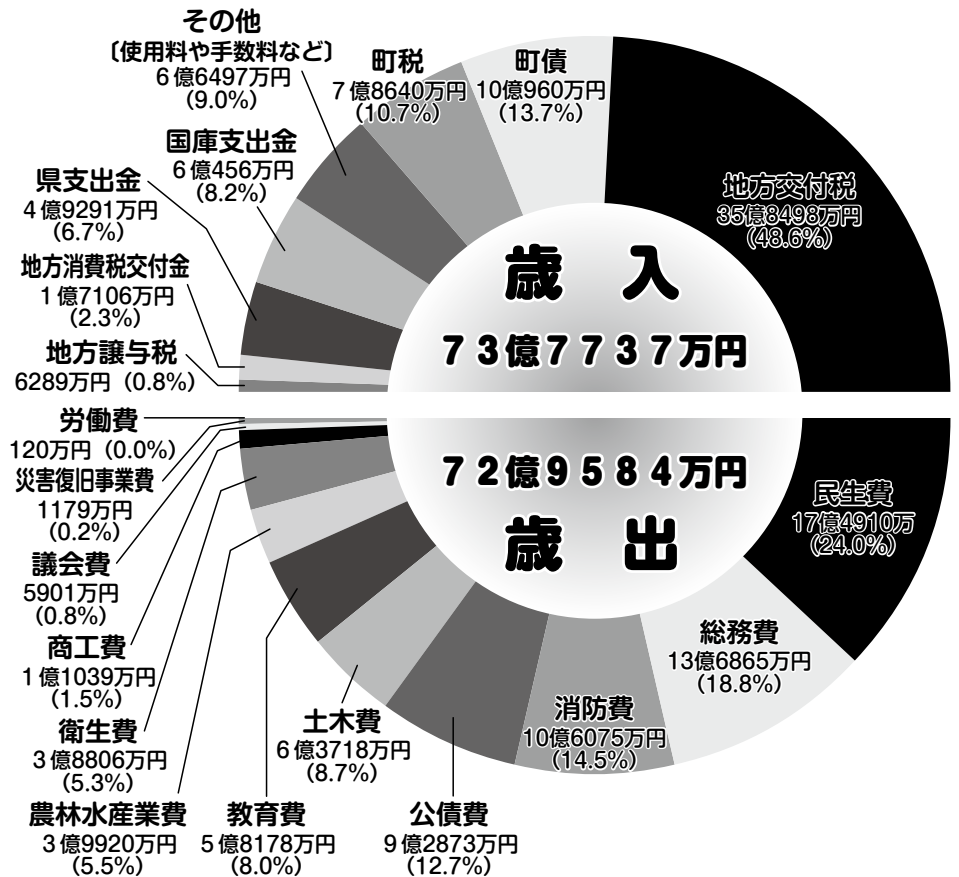
平成28年度 決算



28年度に残ったお金 8153万円
●実質収支 (黒字) 8148万円
そのうち約半分を ▽財政調整基金に積立て (貯金) 4100万円 ▽29年度に繰り越し 4048万円
●29年度に繰り越すお金 5万円 (使いみちが決まったもの)

【地方債現在高】 (町の借金) 101億9205万円
【財政調整基金】 (町の貯金) 4億2706万円

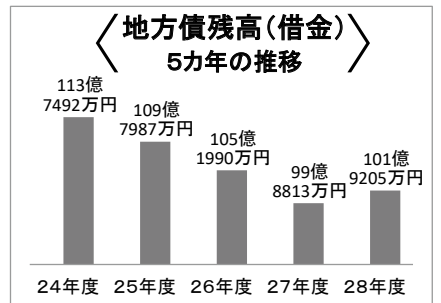
一般会計決算の内訳



<鯉ヶ沢町の財政状況>

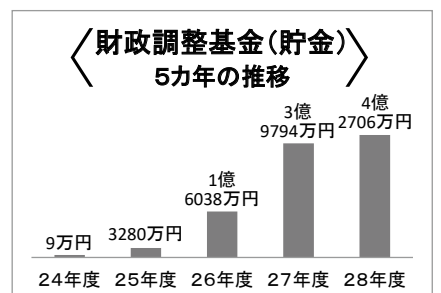
健全化判断比率	鯉ヶ沢町の数値		備考	早期健全化基準
①実質公債費比率	平成28年度	15.6%	県内ワースト5位	25.0%
	平成27年度	16.9%	県内ワースト4位	
②将来負担比率	平成28年度	205.5%	県内ワースト1位	350.0%
	平成27年度	196.5%	県内ワースト2位	

①借入金(地方債)の返済額の大きさを指標化。資金繰りの程度を示すもの
②一般会計等の借入や将来支払う可能性のある負担額を指標化。将来財政を圧迫する可能性の度合いを示すもの



資金不足比率	鯉ヶ沢町の数値		備考	経営健全化基準
公営企業会計	平成28年度	—	水道事業・簡易水道事業・公共下水道事業・農業集落排水事業の各会計	20.0%
	平成27年度	—		

「—」は資金の不足額を生じていないことを示す



ふるさと納税 未来応援基金へ2000万円 積み立て



3期目に向けて立候補を表明する東條町長

平成29年 第3回 定例会

9月8日～14日

平成29年第3回定例会が9月8日から14日までの日程で行われ、上程された議案25件（決算・補正予算）、人事案6件、議員発議として提出された意見書案1件は、審議の結果、議員全員賛成により可決、認定、同意されました。

なお、初日には、東條町長が12月3日執行予定の町長選挙への出馬を正式に表明しています。

また、一般質問では、4人の議員が登壇し、町政の諸問題について執行部に答弁を求めました。（一般質問の内容は6ページから9ページに掲載しています）

このページでは、決算を除いた主な議案についてお知らせします。

平成29年度一般会計 補正予算

可決

歳入歳出それぞれ5796万1000円を増額補正しました。

補正後の歳入歳出予算総額は65億5797万9000円となりました。

（主な歳出の補正内容）

▽あじがさわ未来応援基金へ積立 2000万円

▽あじがさわ未来応援寄附金謝礼 800万円

▽楽天ふるさと納税御礼品管理業務委託料 64万8000円

▽楽天ふるさと納税システム等利用料 215万2000円

▽楽天包括連携事業委託料 150万円

▽社会保障・税番号制度対応システム改修委託料 243万4000円

▽農道中村線法面崩落の修繕 460万円

※雪解けや長雨により、わき水が流れ出たことが原因。

▽アユ中間施設の修繕 181万8000円

※落雷による非常発電機の修繕

▽道路橋梁修繕

190万円

小夜7号線側溝等の修繕

▼人事案件

町教育委員会委員の任命

同意

鶴田 健策氏(舞戸町)

任期満了につき同氏を再任するもの

北浮田財産区管理会管理委員の選任

同意

任期満了につき管理委員5名を再任するもの

（任期）平成29年11月5日から4年

・齊藤 豊 氏

・長谷川 勝男 氏

・長谷川 孝 氏

・添澤 唯四郎 氏

・今 勇造 氏

◎意見書案第1号

「全国森林環境税」の創設に関する意見書

可決



【内容】平成29年度税制改正大綱において、「市町村が主体となって実施する森林整備等に必要なる財源に充てるため、個人住民税均等割の枠組みの活用を含め都市・地方を通じて国民に等しく負担を求めるとを基本とする森林環境税（仮称）の創設」に関し、「平成30年度税制改正において結論を得る」と明記されたことから、森林・林業・山村対策の抜本的強化をはかるための「全国森林環境税」の早期導入を強く求めるもの。

【提出先】内閣総理大臣、財務大臣、総務大臣、農林水産大臣、環境大臣、経済産業大臣、衆議院議長、参議院議長。

第4回定例会 の予定

○12月15日（金）

開 会

○12月18日（月）

一 般 質 問

○12月19日（火）

総括質疑

討論、採決

閉 会

傍聴にお越しください

12月議会の日程は、議会運営委員会において正式に決定されます。

開催日程、一般質問の議員氏名、質問事項については町防災無線、ホームページでお知らせする予定です。



生活科の学習で町の特徴や働く人々の様子を理解するため、3グループに分かれ町内の各職場を見学。6人の児童が役場を訪れ、議場等を見学しました。

議場見学(9月21日)
▽西海小学校2学年

各常任委員会へ付託された 議案の審議内容

9月
13日

※一般会計決算以外の議案について、各所管の常任委員会で審議しました

●総務文教常任委員会

〔東條一彦委員長〕

●国保特別会計決算

Q 平成30年度から国保制度の運営が県へ移行するが、今後の見通しと保険税の変動は。

A 健康ほけん課長

制度移行後、町は県が算定した納付金を支払う。被保険者は保険証や納付方法など今までどおり変わらないが、将来的に県内同税率の運営となる方向である。(保険料は町が納付金や保険料率を基に決定)

現在、当町の保険税は県平均よりいくらか高い。制度移行後の額については、県で様々な要素を加味し保険税を算定中であるが、極端に高くなることはないと考えている。

●介護保険特別会計決算

Q 少子高齢化により、市町村への介護保険の負担割合が増えると思うが、今後の見通しは。

A 健康ほけん課長

高齢化の波は抑えられず、保険料の抑止のため町では介護予防に力を入れ、各地区において運動など様々な取り組みを行っている。来年度の保険料は県内市町村若干上がる動きもあるが、介護予防事業に力を注いでいきたいと考えている。



集会所などに集まり、体操やゲームなどで介護予防へ

○産業建設常任委員会

〔鶴田悦子委員長〕

○公共下水道特別会計

補正予算

Q 採算が取れない事業で加入者の増加を見込めないと思うが、今後の工事計画予定は。

A 水道課長

現時点では平成32年度までの計画である。いま、浜町地区の整備中のため、今後、地区住民へ加入調査を実施していく。



整備が進められている浜町地区

決算審査意見

〈新庁舎建設に向けた確かな財政運営を〉

平成28年度一般会計の決算を見ると、歳入では町税が収入増となったが、不納欠損額も増加。うち固定資産税がその半分以上を占めている。

また、町税の収入未済額については減少したものの7502万円であり、今後も適切な措置を講じ、未収金の解消に尚一層の努力を望むものである。

ふるさと納税(寄附金)は、1億2327万円と大幅に増加した。今後ともその使途において有効な事業へ充当されることを望むものである。

歳出では、公債費の負担割合も改善しつつあるが、年度末の起債残高は101億9204万円を有し、未だ厳しい財政状況にあることは否めない。町では、新庁舎建設検討委員会を設置し、役場庁舎の移転、新築の具体



決算審査の様子
(左) 渋谷監査委員、(右) 増田監査委員

事務事業の見直し、町債発行の抑制、定員管理の適正化等、徹底した行政改革に取り組んでいたきたい。

【要望】公共施設の適正管理について

新庁舎建設に向けての検討と並行し、住民が使用する公共施設については、住民サービスの低下を招かないよう優先順位等を考慮し、適正管理のため財源の裏付け等、将来的な方向性を早期に示していただくことを望むものである。

〈決算審査とは〉

毎会計年度、会計管理者、公営企業管理者等が調製した決算その他の関係諸表について町長からの審査依頼を受け、予算の執行、または事業の経営が適正かつ効率的に行われているかについて審査するもので、意見書は監査委員の合議により作成されます。

一般質問



齋藤 孝夫議員

9月定例会では、4人の議員が一般質問を行いました。その内容を本ページから9ページまで掲載します。

風車建設に対し町独自のガイドラインを 答へ町独自のガイドラインを早急に制定

ガイドラインの早期制定を

問・我が町にも風力発電の建設が目立つようになってきました。近隣住民は、音や陰、また電磁波の影響がないかと不安を感じています。町民の不安を取り除くためにも、風力発電建設について町独自のガイドラインを早期に制定しないのか町長の考えをお聞かせください。

答弁・佐藤副町長

いろいろと懸念もあることから、今、急速に設置が進んでいる小型風力発電に特化したガイドラインを早急に制定すべく作業を進めています。10月中には、公表したいと考えています。

問・実際家の目の前に風車を建てられて、誰が建てているのかもわからない。このような状況に町民は、不安を抱えていると思います。

なぜ早く対応できないのかと、いろいろな不満が出ています。町民の安心、安全を守るためにもしっかりとした施策が必要だと思えますが、町長はどう考えていますか。

答弁・東條町長



県内でも小型風車の建設が急増

非常に困っているのは事実ですが、ガイドラインを作ったからといって法的に止める権利はないので、それ（小型風車建設）を止めることはできないのです。

ガイドラインを作ったので風車が建てられないかといえば、それは今までもおり建っていくと思えます。

意見・ガイドラインを作り規制をすれば、それなりの効果が出てくるのです。何も規制がないから民家の目の前に建てているのです。

そういう現状を踏まえて、しっかり仕事をしていただきたいと思います。

観光の目玉として山車展示の考慮を

問・白八幡宮大祭の山車を観光の目玉として海の駅やJRの駅付近などに展示できないものか、また、使用されていない拠点館の冬の広場などに保管も兼ねて展示することも考えられないものかお聞かせください。

答弁・佐藤副町長

山車の所有権は町内会が持っており、それぞれの町内会が誇りを持って保存、伝承に努めています。

まずは、町内会の合意形成が大前提となりますので、その動向を見きわめて対応していきたいと考えています。

拠点館の展示について

は、山車を館内に入れるには、高さや幅の面に入らないというのが現状であり、玄関ドア等の施設の改修が必要になります。財政的な問題も含めて、優先順位となり得るのか調べていきたいと考えています。

あじバスのアナウンスの機械化は

問・あじバスが春から運行されましたが、一般利用者への数の推移はどうなっていますか。

答弁・小笠原政策推進課長

4月から8月までの5カ月で、月平均が1777人です。これを12カ月単純に掛けると年間2万1300人を超えるということになりました。

参考までに、最近で一番多い年が平成25年度で、このときでも1万9800人であり、2万人を割っています。

問・先般の高校生模擬議会で、あじバスのアナウンスがわかりづらいので機械化してはという提案がありました。やる気はあるのか、お知らせください。

答弁・小笠原政策推進課長

当面は乗務員の指導等によってアナウンスの改善に努めることにしています。

それでも、なお機械化による対応しか改善策がないというときには、機械化に向けた対応をしていくことになろうかと思えます。

一方で、アナウンスの機械化の導入経費などについて調査を進めていきたいと考えています。

※齋藤議員は、このほかにも次のような質問をしています。

◆今年の農作物の生育状況について



東條 一彦議員

若い世代に住宅供給を 答へ町営住宅に優先して入居できるように努力

風力発電事業に参入する考えは

問・全国でも青森県、特に日本海側は風力発電に適している場所と言われています。

平成28年12月議会で特別目的会社を設立し、風力発電事業に参入する計画はないかと質問しましたが、そのときの答弁では、今は考えていないとのことでした。その考えは、今も変わっていないのかお聞きします。

答弁・佐藤副町長

質問の趣旨は、町が独自に自主財源を確保したほうがよいのではないかとという観点からのものだと思います。

自主財源を確保するということがあれば、地域

活性化に寄与することもできますが、風力発電事業の実施に当たっては、

町としても多額の初期投資も当然必要となるとも、その実質的な財政効果がいづらわられるのか、また長期的視点であるがゆえに不確定な要素もあり、大きなリスクがあります。

それに加えて、町が今取り組むべき課題もいろいろあります。そのような中で、果たして今、優先して行うべき事業なのかと言えば、現時点ではすぐ手をつけるような事業ではないのではという思いがあります。

現時点では、町が風力発電事業に乗り出すことについては、昨年の12月議会で申し上げたとおり、まだその考えはないとい

うことをこの場で報告させていただきます。

問・環境への配慮がしっかりとしたものや、住宅に近い場所であれば、民間事業者が当町に風力発電施設を建設することについて、町では歓迎しますが、しませんか。

答弁・佐藤副町長

小型と違って大規模の場合は、いろいろな環境アセスや県への承認届け出等が必要なものと思いますし、町と協議する場合は、地域貢献策を具体的に打ち出す必要があるかと思えます。

現在の時点では、個々の業者の考え方や対応を聞いた上での対応が必要かと思われま

今後の町営住宅の建設予定は

問・今後、町営住宅の建設予定はどのようになっているのかお尋ねします。

また、若い世代から町営住宅をもっと増やしてほしいとの声があります



昭和50年代に建設された大鳴戸団地

が、そのような若い世代の声を町ではどのようにとらえるかお聞きします。

答弁・佐藤副町長

①町営住宅の建設予定について

町では、現在のところ舞戸地区を中心に5つの団地64棟161戸の町営住宅を管理しています。町としては、効率的な管理を図るため町の公営住宅等長寿命化計画、町総合計画をもとに計画的な運用に努めています。今年度は舞戸地区の鳴戸団地に2棟4戸の建て替えを行うことにしています。

今後は、傷みが激しく、対応が急務となっている舞戸地区の大鳴戸団地の整備を計画しています。

②若い世代の声をどのようにとらえるかについて

町営住宅は、公営住宅法により国の補助を受けて整備していますが、住居に困窮している低所得者に低廉な家賃で住まい

を提供するというのを一番の大きな目的としています。

そのため、若者の定住促進を目的とした住宅等とは違いますが、入居に当たっては、若い世代や子育て世帯の方々の入居申し込みについてその内容等をよく確認し、優先して提供できるように努めているのが現状です。

意見・若者の定住という観点からは、若い人が入りやすい住宅、例えば集合住宅などといったものも今後検討していく必要があるかと思えます。

鱒ヶ沢町では、若者の定住も重要な課題であり、その中には当然若い人が住むところも含まれていると思いますので、ぜひ柔軟な対応をして、町では若い世代のこともしっかりと考えているということを見させていただきたいと思



長谷川統一議員

地域商社で生産者の流通経路を 答へーITの活用による販売拡大を検討

地域商社の進捗状況は

問・町の地方創生プランに、地域商社を設立し、物産等の販売に努めるといった計画がありました。その後、事業の進捗状況はどのようになっているのか、また、町では、今後この取り組みについてどのように考えているのかお答え願います。

答弁・小笠原政策推進課長
地域商社は、未知の部分も多いため、セミナー等に参加し学習を重ねるとともに、地元の関係団体からの情報収集を行って、この町に見合った商社の青写真を描くべく検討を重ねています。
その結果、導き出された方向性としては、将来的には独立採算制の経営、

民間企業への移行を基本とするものであること。不確定な要素もあることから、地域商社スタート時点では、大きな施設の整備、加工場などは伴わないような必要最小限のところからスタートしたいと考えています。

このことから地域商社は、当面、ふるさと納税の寄付の受け付けとお礼品発送の仕組みを参考に、インターネットを活用した地域産品の販売拡大に軸足を置いたものとして検討していくことになっています。

意見・生産者が物品を加工して商品にし、それを流通に乗せるというところまで生産者に頼っているのかというのが、私の考えです。
いい加工品を売ってあ



ふるさと納税のお礼品の一部

げる場所、売ってあげるセクションがないと、なかなか所得の向上にはつながらないと思います。1次産業の方々が大きい期待している事業です。ので、スピード感を持って業務に取り組んでいたきたいと思えます。

すが、町の考えはどうか、お聞きします。

答弁・東條町長

人口減少及び少子高齢化は、間違いなく進むものであり、対応は必要であると思えますので、町の長期ビジョンを策定し、計画性を持ったまちづくりを進めていきたいと思えます。

答弁・小笠原政策推進課長
町の長期ビジョンとしては第5次町総合計画、また、人口減少、少子高齢化に特化したビジョンとして、まち・ひと・しごと総合戦略があり、これらをベースにまちづくりを展開しています。

長期ビジョンの策定が急務では

問・今後の人口減少や少子高齢化を想定した新たな町の長期ビジョンの策定が急務であると考えま

余地はないと考えます。このため、他市町村の事例等を調査するなどし、まちづくりの長期ビジョンを描き、その対応策、まちづくりの基本的な方向性を事務レベルで検討したいと考えています。

問・特に広い行政区を持つ当町において、行政サービス、各種インフラの整備、交付税の減少といった観点から近い将来、地域コミュニティを残しながらまちづくりを進めていくのか、片やコンパクトシティ化を推し進めるのか、そう遠くない将来、大きな決断が迫られる時が来ます。

今からある程度の調査、検討が必要だと思えますが、町の考えはどうかお聞きします。

答弁・東條町長

行政区域が広く、山間部に小さな集落が数多く点在しているのが、当町の特性でもあると考えています。

コンパクトシティ化については、効率的な行政運営という観点からも検討していく必要があると考えています。

答弁・小笠原政策推進課長

コンパクトシティ化は、町の長期ビジョンにおいても大きな柱として検討されるべきものと理解しています。
しかし、中心市街地に居住を誘導する際には、住民の意向を確認し、行政からの押しつけ、小集落の切り捨てにならないよう住民の理解を得る必要があると思えます。

ただ、医療、介護、福祉の面では、サービスを維持できるようにコンパクト化は求められると思えますので、情報収集、調査、検討に着手していきたいと考えています。

※長谷川議員はこのほかに次のような質問をしています。

◆風力発電における住民とのトラブルについて



鶴田 悦子議員

健康相談で意識改革を 答へ毎月1日を健康の日と定め事業を実施

健康相談の件数と 内容は

問・過去5年間の年度別
男女別の健康相談の件数
と内容、また、健康相談
をして気にかかることが
ありましたらお知らせせ
ください。

答弁・加藤健康ほけん課
長

①健康相談の件数と内容 について

過去5年では、年平均
66回開催しており、参加
している方は延べ480
名ほどいます。

男女別では、残念ながら
男性が少なく約5
パーセント程度となっ
ています。

内容は参加者全員に対
して生活習慣、高血圧や
糖尿病対策などの健康教

育を行った後、血圧測定
を行い、個々に応じた相
談、指導を行っています。

また、地区によっては、
骨密度、体組成なども測
定しており、その保健
指導も行っています。

さらに、昨年からは毎月
1日をあじがさわ健康の
日と定めており、このと
きに実施しているお手軽
元気健康チェックでは、

血圧のほか骨密度、体組
成などを測定して、その
結果をもとに食生活や運
動などといった指導、健
康相談も行っています。

②健康相談をして気にか かる点について

各地区に保健師が出向
いて健康相談を実施して
いますが、参加者も高齢
化してきており、地域に
よっては、継続が難しく

なっているところも出て
きています。

来る方も場所によつて
は、同じ顔ぶれ、固定化
している傾向もあります。
その一方で、老人クラ
ブ、町内会、会社などが

ら健康相談の要望もいた
だいており、対応してい
ますが、そのような件数
は増えてきています。

意見・青森県は健康寿命
が非常に低い。最下位に
近い。中でも鱒ヶ沢とい
うことで、町長が健康の
日まで設けて実施してお
り、確かに効果は上がっ
てきていると思います。

健康相談は、生活の中
に食事、運動、物の考え
方などの意識を持たせる
ことが大事ですので、よ
ろしくお願ひしたいと思います。

小中学校の健康教 育の内容は

問・小中学校の健康教育
は、どの程度行われてい
ますか。

答弁・加藤健康ほけん課
長

昨年度は、小学生を対
象に8回、中学生を対
象に9回実施しています。

そのほか、小学校、中
学生と保護者を対象にし
た栄養教室、親子プロ
ジェクト等を各2回ずつ
行っています。

そのほか親子プロジェ
クトの中学生生活習慣病
検診の結果、余りいい数
字が出ていませんので、
正しい健康教育の啓蒙、
生活習慣の改善を喫緊の
課題と捉え、その推進に
力を入れています。



健やか隊員育成講座で学校生活における健康づくりについて
意見を交わす小、中学校の先生方

今年度は、健やか隊員
育成講座を実施していま
す。これは、小学校、中
学校の先生方を対象に受
講してもらい、今後、授
業などに生かしてもらえ
ればということで実施し
ています。

答弁・神教育長
学校の保健教育が若干
手薄なのではないのかと
いう鶴田議員からのご指
摘がありました。現在、
小中学校では保健教育、
安全教育、食育教育に取
り組んでいます。
20年、30年先の子供、
生徒たちの姿を想定しな
がら健康教育の授業につ
いて時間を取りたいと考
えています。

町議会×地婦連 意見交換会 ＼かっちゃんのパワー！

女性の活躍で 元気な町へ



各グループに議員1人、地婦連1～2人、町職員、学生が1人ずつ入り、それぞれの思い、意見を話し模造紙に書いていく

10月24日、町議会では鯉ヶ沢地域婦人団体連絡協議会（水口優子会長・以下、「地婦連」と）と「女性が活躍する鯉ヶ沢町を目指して」をテーマに意見交換会を開催しました。

この意見交換会は、議会改革特別委員会（長谷川統一委員長）が議会活性化の取り組みの一環として、町民との交流を図るとともに、多様な民意を把握し、政策形成過程の積極的な関与を目指すため地婦連との共催で開催したものです。

意見交換会には、町議員8人、地婦連から15人、町職員9人が参加。

青森中央学院大学佐藤淳准教授が進行を務め、テーマについて、席替えをしながらテーブルごとに話し合う、ワールドカフェ方式で行いました。

当日は、佐藤准教授が指導する経営法学部の学生9人も参加。5～6人ずつ8つのグループに分かれ、それぞれの思いや意見を交わしました。

初めは、互いに緊張があったものの、時間が進むにつれ、各グループでは参加者が、それぞれの考え、思いを熱く語っていました。

町議会として、このように町民とテーブルを囲み、町の現状と将来について話し合うのは今回初めてのことであり、町についての率直な思いや意見、議会に対する考えを聞くことができました。

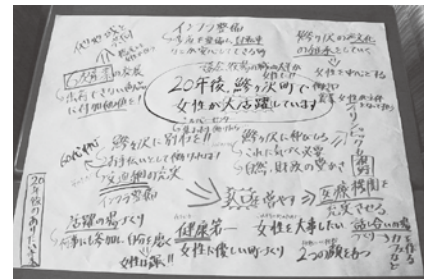
町議会として、このように町をもっとよくしたい、元気にしたいという参加者の気持ちはみな同じであり、意見交換会を一度で終わらせるのではなく、今後も継続し、話し合う場を作っていくことが重要となります。

町議会として、受け止めた町民の声をいかに町政へ届けていくかが今後の課題です。

住民の福祉向上のために、議員間で討議しながら政策提言へ繋がられるよう、引き続き議会活性的取り組みを進めていきます。

<テーマ>

- ①鯉ヶ沢町の女性の誇りに思うところ、残念に思うところは？
- ②20年後、鯉ヶ沢町では女性が大活躍。どのようになっていますか。
- ③20年後のありたい未来（女性が大活躍する鯉ヶ沢町）を実現するために、今日からどんな一歩を踏み出しますか？



参加者が話された意見等（役場3階議員控室の前に掲示しています）

【鱒ヶ沢町の女性の誇りに思うところ】

- ・かっちは働き者
- ・我満強い
- ・一次産業の引き継ぎを頑張っている
- ・地婦連が活発で元気 (60、70代)
- ・女性が強い
- ・人情深い

【鱒ヶ沢町の女性の残念に思うところ】

- ・人口減少、少子高齢化
- ・働く場所がない
- ・世代の繋がりが弱い
- ・男女不平等
- ・30、40代の声が聞こえない

**【20年後の鱒ヶ沢町では女性が活躍！】
どのようなになっていますか**

- ・女性の意見を聞き、取り入れる
- ・働く人はみんな鱒ヶ沢へ
- ・働き口、農業女性が主体となって担う
- ・女性の発想で町おこしをしているといいな～
- ・6次産業の発展→他地域と共同【橋渡しを女性が担う】
- ・若い人、女性が多い
- ・町長も女性
- ・女性の管理職がいる
- ・町会議員の半数が女性
- ・女性の収入が増えている！

◎地婦連

鱒ヶ沢町を良くするために今日話し合えたことは本当に良かったと思う。もっと、町の良いところを（農業に従事しているので）農業から、県外の方へPRしていきたいと思う。

◎地婦連

年齢、職種の違った人たちと町の発展について、こんなに楽しく語り、まじめに考えさせられる事はなかった。町議員が今後どのようにに町民を導いてくれるのか大いに期待する。今後の町の発展は女性の力と言われるように今からでも頑張りたい。

○議員

町を心配し、自分の将来をどうなるのか考える人、考えない人には非常に差がある。みなさんにとって、勉強になったと思う。

○議員

昔も今も女性は強い。次々と意見が出るが、テーマから外れないよう注意して話すことも必要。

□町職員

世代間のつながりが大事だと感じた。

女性が活躍するとういうテーマですが、結果的に女性が活躍すると、町がもっと良くなることに繋がっていくと思う。

□町職員

地婦連の意見が町になかなか取り入れられないのが実情と感じた。また、議員の方にとって耳が痛い意見もあつたと思う。

意見交換会に参加して

◆学生

みなさんが鱒ヶ沢町をもっとよくしたいという気持ちが伝わってきた。

今回のような意見交換会をたくさんやっていけばいいと思う。

◆学生

外からの目線から見ると、話合いの場が今まででなく、今回参加者の本音、意見が聞けたと思う。

行政、議会は対等な立場でその声を拾って話し合う場が必要だと思ふ。



平成29年議会行政視察日程

- ◇10月1日(日)
東京鰯ヶ沢会総会交流会(四谷 スクワール麹町)
- ◇10月2日(月)
光が丘地区との意見交換会(光が丘区民センター)

R e p o r t

議員行政視察



交流会で乾杯の挨拶をする一戸議長

新青森駅から新幹線で一路東京へ向かい、四谷で行われた東京鰯ヶ沢会に参加した。東京鰯ヶ沢会に議會として参加するのは、15年ぶりである。当日は、秋元謙治会長はじめ会員ら110名が参加出席した東條町長ら町職員、商工会役員、我々議員らと会員とがふるさと鰯ヶ沢について語り、談笑した。

故郷でつながる鰯ヶ沢を元気に

東京鰯ヶ沢会 総会・交流会

町議会では、今年度の視察研修として10月1日に東京鰯ヶ沢会への出席、翌2日には当町と地域間交流を行っている東京都練馬区光が丘地区との意見交換会を行いました。その模様を今議員がレポートします。

今回の視察研修には、12名の議員全員が参加した。10月1日、一行は、朝6時に役場前をバスで出発。



会員との久しぶりの再会を喜ぶ議員

東京鰯ヶ沢会では、秋元会長がリーダーシップを発揮し、活発に事業を行っているが、会員が固定化し、若い人の加入が少ないことが課題であるようだ。

光が丘地区との 意見交換会

翌日、一行は、マイクロバスをチャーターし、

【光が丘との交流経緯】

現在、鰯ヶ沢町は光が丘地区と地域間交流を行っているが、その発端は、鳴沢まちづくり委員会が首都圏で農産物などの地場産品を販売する計画を立て、その販売場所の調査を東京鰯ヶ沢会秋元会長に依頼したことがきっかけとなったようだ。

依頼を受けた秋元会長は、光が丘のイベントに赴き、偶然、同地区連合協議会の高橋会長、阿瀬見副会長と懇意を得、それを契機に交流がスタート。

平成24年に鳴沢地区まちづくり委員会が光が丘公園で行ったりんご即売会を皮切りに現在まで鳴沢地区等の物産販売、光が丘地区の方々の鰯ヶ沢町ツアーが行われているほか、平成27年には、同地区にあるアオバジャパン・インターナショナルスクールの子供たちが修学旅行として鰯ヶ沢を訪れるなど活発な交流を続けている。



東京鰯ヶ沢会
秋元会長

練馬区光が丘地区に向かった。はじめにバスで光が丘公園の外周を走り、団地などの街並みを見学した。私が驚いたのは、緑あふれる街で、街路樹がいっぱいあり、公園も整理整頓されゴミや落ち葉などもなく、街ぐるみで取り組んでいると感じた。



区民センター前の公園遊歩道を散策する議員等
戦前の空軍滑走路跡地

この後は、光が丘区民センターで意見交換会を行った。
意見交換会には、光が丘地区連合協議会の高橋会長はじめ阿瀬見副会長、同協議会役員のほか練馬区議会副議長 酒井妙子氏に出席いただいた。

まず、高橋会長が練馬区と鯉ヶ沢町との比較について、練馬区は23区でも面積は広いほうだが鯉ヶ沢の面積の13パーセントしかないこと。また、両地区とも少子高齢化が進んでおり、高齢化率は鯉ヶ沢町の34パーセント

に対し、光が丘が27パーセントであることなどを話し、少子高齢化対策のためにも地域間交流を進めていく必要があるとの考えを説いていた。

地区住民によるまちづくり運営

また、練馬区に掛け合い、公園の清掃を業者委託から地区住民への委託とすることとし、委託を受けた地区住民が清掃活動をしていることを例に挙げ、高齢者を弱者ととらえるのではなく、1日に1時間でも2時間でも働く場を設けることが高齢者のいきがいにつながると話していた。

さらに少子高齢化による税収減に対応するためには、行政と地区住民の協働の活動が必要であり、街づくりには区民参加が不可欠と話していた。



(右から) 光連協 高橋会長、練馬区議会 酒井副議長、光連協 阿瀬見副会長

光が丘地区連合協議会（光連協）・・・
昭和61年に、15団体で光が丘地区住民組織連絡協議会として設立。平成25年に改称し、現在、自治会、管理組合、防災組織の3部会のもと、55の団体で構成。



光が丘地区祭でりんごなどの物産を販売
(10月7日～8日)

最後に鯉ヶ沢町の皆さんが、光が丘地区に来た際には、練馬区の税収は減るが、鯉ヶ沢町に対するふるさと納税をどんどん

ん宣伝してほしいと話していた。

（14ページに続く）

光が丘

◆人口・世帯
27,925人・12,710世帯
(平成29年9月1日現在)
◇学校数◇
小学校4校（8校からの統廃合）
中学校4校、都立高校2校

【光が丘地区とは】

東京都練馬区北部に位置する振興地域。旧陸軍成増飛行場の跡地で、戦後は米軍が中級将校の官舎（グラウンドハイツと称した）を建設し、膨大な敷地が残された。

緑が多く、昭和50年代に光が丘公園や、多くの住宅団地（分譲・賃借）が整備、建設されパークタウンとなる。街並みは電柱が埋設され整然としている。

地区の中心には、清掃工場があり、その余熱を利用した地域熱供給を導入し、団地の冷暖房、給湯に利用されている。

また、警察、消防、学校施設等を一括管理し、異常発生に対応する監視センターがあり、安全安心な街づくりにも取り組んでいる。

交通アクセスは地下鉄大江戸線の開通により、新宿など都心部や横浜まで買物圏域が広がり、利便性が高い。

Report

議員行政視察

おせっかいなまち 光が丘

〈13ページから続く〉
次に阿瀬見副会長らが光が丘のまちづくりの取り組みについて説明。一か月に1回以上会議を開き、連携を密にして住環境の情報の共有などを図るとともに文化活動など様々な活動などをして、豊かで住みよい街を次世代に残したいという考えには感銘を受けた。

地区が形成され30年以上経った光が丘も今は高齢のまちとなり、高層団地で見知らぬ人も多いため、近所つきあいもなく孤独になり、また、近隣でも気付かず孤立死が増えてきたことを受け、堂々と隣近所で声を掛け合えるまちをつくらうと、冊子「おせっかいなまち光が丘」を作成。冊子を一万世帯に配布し、ご近所のいづれもと違う行動や変化に気づいたら掲載されている各機関へ連絡、相談して次にいかないでいく。住民が互いに気づきあえる関係づくりをめざしているとのことだった。



冊子「おせっかいなまち光が丘」を各世帯へ配布

木オーナー制度 導入を

この後の意見交換では、神孝議員が※葉取らずりんごの木オーナー制度を提案。

阿瀬見副会長らが大変良いアイデアであり、具体的な検討をし、できれば行政とのつながりを持ちながらぜひ実現させたいと話す一コマもあった。



葉取らずりんごの木オーナー制度を提案する神孝議員（右）

※葉取らずりんご・・・果実に袋をかけないため、色ムラができ見栄えはよくないが、葉からの栄養が届き糖度が上がり、味が良い。

生産者は高齢化により、はしごに上がるのが大変であり、葉取りや袋かけの手間がかからず、生産者の現状にも適している。



〈葉取らずりんご〉見た目は良くないが、甘みがある

今後光が丘地区と信頼関係を深め、地域間交流を行うことは、非常に当町のまちづくりにとっても重要であると思う。双方に恩恵がある交流としていければと感じる。

意見交換会を 終えて

居住環境の情報の共有と文化の向上を図り、光が丘の豊かで住みよい街と次世代へのふるさとづくりに貢献する考えはすばらしいと感じた。これからも鱒ヶ沢町との交流を深めていただき、信頼関係の中で、共に絆が長く持てることを期待したい。

〔記 今 勝義〕